

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2000号 2010年01月04日(月)

《 world market is opening in Tokyo 》

珍しく4日の東京市場が世界でも最初に開く主要市場という一年です。いつもは海外市場が2日から始まっていて、それを追いかけて東京市場が取引を開始するのですが、2日、3日が珍しく土日だったが故に4日の東京市場が世界の主要市場の先頭を切って取引を開始した。

昨年末の為替、株式市場の大きなトレンドは、為替については対ドルを初めとする円安、そしてそれもあつての株式市場での株価上昇だった。ドル・円では93円台での豪ドル・円は83円台での越年となったし、株価は失敗したものの「年初来高値で終わるかどうかが」焦点になるほど年末にかけて上値を追った。年間を通しては19%ほども上昇した。

今年最初の注目は去年の末のドル高、株高のトレンドがまず修正されて始まるのか、それとも「トレンド継続」で始まるのかだろう。筆者はやはりいったん修正があつて、それからもう一度ドル高、株高をトライする可能性が高いと思っている。昨年末の相場は、ややトレンドがふくらみすぎていたし、スピードも速すぎたと考える。ただし当面はその修正は浅いものに終わるでしょう。本格的に修正するとしたら、2月か3月か。

昨年末の為替相場を動かしたのは、季節的な資金の流れ（決算期を前にしたドルの買い戻し）と日米金利差の拡大見通しだった。前者がなくなるのは分かっているので、問題は後者だ。その面で最初に市場が注目するのは今週金曜日に発表される米12月の雇用統計である。これが弱ければ、アメリカの金利上昇見通しは弱まることになり、その場合には円相場がやや円高に振れる可能性がある。

もっとも今現在はアメリカ経済に対する強気の見方が支配していて、それがアメリカの長期金利の上昇、加えての目先上昇予想があり、ポジションが徐々に円買いから戻るプロセスの中でドルが強くなっている。同統計はそのトレンドを変えうる可能性がある。

鳩山内閣の経済運営の腰は新年になっても定まっていない。昨年末に「新経済成長戦略」(<http://www.kantei.go.jp/jp/kakugikettei/2009/1230sinseichousenryaku.pdf>)を発表したが、その内容はなんとも薄味の中身のないものだった。そもそも「一体誰が書いたのか」と首を傾げざるを得ないものとなっている。馴染みのない単語がずらりとあり、「政治主導」を唱える鳩山政権の政治家が書いたとは思えない。「モーダルシフト」はまだいいとしても、「ドラッグラグ」「デバイスラグ」なる言葉は筆者もこの文章で初めて知った。業界の人し

か知らない言葉。それが使われている。

もっとも「戦略」が出たこと自体は歓迎すべき事です。本来はまず「戦略」があって、その上で事業仕分けもなければならなかった。ところが、指針がないまま事業仕分けが行われた。仕分け人の一人は、「(指針がないので) 自分の良心に基づいてやった」と。そうだとしたら、仕分け人一人一人が異なる基準を持って事業を仕分けたと言うことです。これでは結果はバラバラになる。実際にそうなった。民主党はネクスト・キャビネットというのを作っていた。そういうところで、基本戦略(成長戦略を含めて)を作っておくべきだったのでしょう。「政権交代」をずっと叫んでいたのですから。

連立がありましたからその面で遅れた理由は分かる。しかし、思ったほど、というか全く政権準備が出来ていなかったというのが、政権樹立から3ヶ月半の間に明らかになったということです。民主党の新戦略に対する筆者の印象は

1. アジアに主に触れているが、ではFTAAPなどを具体的にどう進めるかのシナリオがない。また世界経済でのアジアの地位向上はその通りだとしても、デファクト・スタンダードを作り始めた欧州や、依然として大きな市場であるアメリカに関するアイデアがない
2. 「環境・健康・観光」の「3K」を成長の柱にということだが、やはり日本が世界で存在感があるのは製造業であり、そのセクターをどうやって強くするのに關してアイデアがない
3. 「環境」「健康」についても具体的に何をやるか不明だし、「観光」を言うなら一番障害になるのは「円高」だが、2009年下半期の円高は民主党政権の方針を受けた為替動向とも見ることが可能で、大筋のところでは矛盾している

など。昨年最後の30日の日本の株式市場は全くこれを評価しなかった。日経の一面はこの民主党の新経済戦略をトップから外した。相変わらず来年の民主党の経済政策はJAL問題への対処のようにぶれるし、芯が通らない。「それでは困る」という状況が続けば、市場は改めて鳩山民主党政権に対して疑念の目を向けることになり、市場からも「退陣勧告」が出る可能性がある。

今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|-------------|----------------------------|
| 01月04日(月曜日) | 大発会(全日取引) |
| | 米12月ISM製造業景況指数 |
| | 米11月建設支出 |
| | アトランタ連銀総裁講演(金融危機についての討論会で) |
| | デュークFRB理事講演(「経済見通しについて」) |

01月05日（火曜日）	12月マネタリーベース 12月新車販売台数 米12月米国内新車販売 米11月製造業受注指数 米11月中古住宅販売保留
01月06日（水曜日）	米12月ADP雇用統計 米12月ISM非製造業景気指数 FOMC議事録（12/15-16開催分）
01月07日（木曜日）	12月オフィス空室状況 セントルイス連銀総裁講演（上海交通大学で） カンザスシティ連銀総裁講演（「米経済見通しについて」）
01月08日（金曜日）	11月景気動向指数（速報） 米12月雇用統計 米11月卸売在庫 セントルイス連銀総裁講演（上海財経大学で） リッチモンド連銀総裁講演（「米経済見通しについて」）

《 have a nice week 》

年末年始はいかがでしたか。海外を含めて出かけた人、普段居住する場所にとどまった人様々だと思います。筆者は実に久しぶりに東京でずっと年末年始を過ごしました。5年ぶりくらいでしょうか。海外や離島が多かった。仕事が31日に入った関係もあったし、休みが短く、並びが悪かったこともあった。で都内で出かけたのですが、2日、3日のデパートの人出はすさまじかった。店によっては昨年よりかなり売り上げが伸びたところもあるそう。ここ数年不振が多かっただけに、賑わったのは良かったと思いました。

デパートのレストランで順番待ちをされていて思ったのは、似たような顔で一緒に歩いている人が多かった。親子、姉妹、一族郎党などなど。やはり一年で一番正月は家族で移動する機会が多い時間なのでしょう。実は去年の今頃はどうかだったのかと思って、リーマン・ショックから3ヶ月あまりと時間がそれほどたっていない去年の1月5日の号（1953号）を読んでいたら、ドル・円に関して「92円台」という表現を見つけた。去年も今年もあまり変わらない年明けだということです。

しかし、歴史が同じ事を繰り返すことはないので、今年の相場は去年とはかなり違った展開になるのでしょうか。今年の相場予想は去年の12月の初めに出しましたが、「ドルは案外強い」というもので、その後の展開はその方向だが、むしろ今のドルの強い状態がそのまま続くとは思っていない。相場は波だし、一種リズムでもありますから。

今年一年が皆様にとって良い年でありますように。心からお祈りします。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》